

# 軽工業と農業の発展に力を注いでいる朝鮮

朝鮮社会科学者協会研究員 李英玉

朝鮮では、人民生活の向上は党と政府の最大の関心事で、最大の目標とされている。人民の一番の喜びを探り出した金正日総書記は、人民の衣食の問題を解決するため、数々の努力を尽くした。彼が行った最後の最後が、「光復地区商業中心」だった。

朝鮮は2010年と2011年を人民生活向上と軽工業の年と定め、今年2012年も、軽工業と農業部門を強盛国家建設の主攻戦線として押し立てて、すべてを人民生活向上に向けている。

## 1. 軽工業発展のための努力

朝鮮は、解放後から今日に至るまで、自立的で現代的な軽工業を建設するための事業に力を入れ、軽工業のしっかりとした物質技術的土台を築いた。

金正日総書記は軽工業発展に関心を持ち、軽工業を近代化させるための闘争を賢明に導いた。これにより、今日、朝鮮では、多数の軽工業工場が近代化され、新世紀に見合う最新型生産工程を備えた生産基地が全国で建てられた。このような生産の土台が大きな力を出し、生産を高い水準で正常化することで、人民生活を高めることが、現時期の朝鮮の軽工業発展の基本方向となっている。

朝鮮では、何よりも人民の要求に応えた、彼らが認める質の良い軽工業製品をより多く生産することに優先的に力を注いでいる。軽工業製品の質の水準を高め、多様化することは、人民の国産品に対する誇りを待たせることにおいて重要な問題で、人民に豊かな物質生活を保障しようとすることは、朝鮮労働党と政府の確固たる姿勢である。このことから、朝鮮では紡織、衣服製品の数が増え、その質を高めている。

人民の物質生活においては、衣服の問題はとても重要である。昔から、朝鮮人民は綺麗で整った服装を礼儀、道徳として考えてきた。社会発展と共に、服装に対する人民の要求はさらに増している。

このような人民の要求を実現するため、金貞淑平壤紡績工場では、質を引き上げるための事業に力を入れ、テトロン人絹を多く生産している。この工場生産されるテトロン人絹は、紬のように柔らかく、艶々していて、各種洋服とシャツに多く利用されている。

楽浪烽火被服工場は、操業開始から間もないながら、数々の衣服と女性の生活に必要な様々な製品を生産している。

江界編織工場をはじめ紡織工業部門の主要工場でも、質の良い布と編物、衣服製品を生産している。

平壤靴下工場で最近多く生産されている「チョルチュク(つつじ)」靴下もその種類が数十種類に至り、その質も高い。女性の靴下だけで、季節ごとにアンクレット、ハイソックス、ロークルーソックス等があり、素材も季節の特性にあわせ、朝鮮女性は誰もが「チョルチュク」を好んで利用している。

朝鮮では、食料加工品の数も増やしていて、質も高めつつある。食料加工工業の急激な発展とともに、朝鮮では数多くの加工品が生産されている。このような加工品では、人民の要求と希望に合い、また健康に良く衛生的な生産が求められている。平壤谷山工場では、酵素生産工程、酵素水あめ、ブドウ糖生産工程の現代化成果をしっかりと上げ、製品の質を高め、その数を増やしている。平壤小麦粉加工工場では、乾燥イースト生産を行いつつ、新しいパンの品質改良材を受け入れ、増加する小麦粉加工品に対する需要を保障している。船興食料工場で生産される食料品は、パン、飴、お菓子等、その数と種類が多数で、またその質も良い。最近、建て直された光復地区商業中心にあるこの工場の食料品に対する人民の需要は非常に高い。

朝鮮では、質の良い日常用品を多く生産保障するための事業も促進している。その代表として新義州化粧品工場があげられるが、この工場では全般的な化粧品生産工程の無菌化を実現し、質の良い「ボムヒャンギ(春の香り)」化粧品を生産している。この化粧品は質において世界的に評価が認められた商品である。この工場生産された石鹸、歯ブラシ、歯磨き粉等も、その質がとてもよく、最近行われた全国的な軽工業製品フェアで優秀な評価を獲得した。

次に、朝鮮では軽工業部門に必要な原料、素材を自らの資源と原料を基に解決し、地方工業を発展させる事業を徹底して根気強く進捗しつつある。軽工業部門に必要な原料、素材を国産化するための軽工業原料を保障する関連部門で、様々な原料を基本的に自身で保障するようにしている。特に、機械工業、化学工業、金属工業、農業、水産業部門等で、合成樹脂と合成繊維、基礎化学製品、さまざまな規格と材質の鉄鋼材、二次金属加工製品、非鉄金属加工製品、動物性原料と植物性原料をはじめ、軽工業原料をより多く生産するようにしている。

朝鮮は国内にしっかりとした地方工業の土台を持って

る。地方工業発展に力を入れ、人民生活を向上するための事業に様々な工夫をしている。地方工業を進展させることにおいて重要なのは、その地方にあった国内の原料を効果的に利用することである。

朝鮮の中山間地帯では、山菜や野生の果物を、海辺にある地帯では海産物を利用し、様々な食料品を生産するようにしている。市、郡等と食料工場で、原料基地の利用率を高め、ぐみ林と紙原料林を作り、鉄屑、ゴム屑を始めリサイクル資材収集事業を広げ、地方工業工場に必要な原料の保障の事業も促進している。

金日成主席と金正日総書記の現地指導の信念が残されている食料工場では、生産工程の近代化、科学化を実現し、原料保障対策を立てることで、各種の食料品生産を正常化している。

朝鮮では、すべての地方工業工場を近代化させるための事業も地方工業発展の重要な要求として提起し、この事業を促進しつつある。

## 2. 農業発展のための努力

金日成主席は、以前、朝鮮人民の要求と我々の現実にあった農法を創始し、そのための闘争を賢明に指導した。金正日総書記は、苦難の時期、新しい農法を取り入れた農業革命方針を提示し、そのための事業を導き、農業生産を画期的に高めることができる道を作った。今日、人民の食問題、食糧問題を解決することは、朝鮮の最大問題として提起されている。このことから、2012年の新年を迎えて発表された『労働新聞』、『朝鮮人民軍』、『青年前衛』共同社説では、農業生産を増やすため、重要な課題を提示した。

農業生産を増やすために朝鮮が推進していることは、まず、農業革命方針を徹底的に貫徹し、あらゆるところで穀物の町歩当たり収穫を画期的に高めるようにすることである。種子革命方針、二期作方針、ジャガイモ農業革命方針、大豆農業方針を始め、朝鮮労働党が提示した農業革命方針は朝鮮の現状にあった、農業生産を増やすことのできる妥当な方針である。

朝鮮は三面が海に囲まれていて、山が多く、耕地面積が制限されていて、地方ごとに気候条件と土壌条件が異なっている。このような条件を考慮し、朝鮮では、すでに実験を通した種子革命方針を始め農業方針を貫徹し、収穫を高めていく方向に進んでいる。あらゆる地帯の特性にあった種子を選び植えて、ジャガイモ農業と二期作農業の面積を増やし、大豆農業を積極的に促進している。特に、少量の肥料でも多くの収穫が得られる、多収穫品種を開発育種するための研究が活発に行われている。これと共に、穀物の

町歩当たりの収穫を飛躍的に高めることに中心をおいて、栽培の技術と方法を根本的に革新させるための対策も立てようとしている。

農業生産を増やすために朝鮮がさらに力を入れているのは、環状循環生産体系と自己の有機農業を積極的に受け入れ、営農物資と設備の需要を適時に供給できるようにすることである。質の良い肥料が多く生産できてこそ、田畑の地力が増やせ、農業生産を活発に行える。

金正日総書記は、生前に肥料と米は同じの価値のあるものであると言っている。

現在、朝鮮では質の良い肥料が多くて生産のため最も効果的な方法として、環状循環生産体系を取り入れている。環状循環生産体系とは、家畜の排泄物を田畑に出し、農産物の生産を増やし、またそこから収穫したものを家畜の餌として利用するというものである。朝鮮の多くの協同農場では、以前から環状循環生産体系による様々な有機質肥料、代用肥料を生産し、農作物の生育時期別物質需要を最大限保障している。これと併せて、環状循環生産体系の効果を高めるため、循環の輪を合理的につなぎつつある。

有機農業は化学肥料を使わずまたは少量で、様々な生物学的な方法で環境汚染を減らしながら、農産物の量と質を永続的に高める方法だ。朝鮮では、農産と畜産を結合する環状循環生産体系に基づいて、有機質肥料を使った農業の比重と田畑への導入面積を増やす目標を立てている。これに伴い、有機農業のクン稲（大きくなった稲）栽培を広範に受け入れ、ジャガイモの茎と小麦、麦わらの緑肥効果を利用するなど、可能なすべての方法を積極的に利用している。

農業生産を増やすには、数々の営農物資と設備が要求される。このことから、朝鮮では農業生産目標遂行に必要な営農物資と設備等を需要に適時に保障できるように、積極的な対策を取っている。

朝鮮では、人民の食問題、食糧問題を解決するために、農業生産を増やすことと共に現代的な畜産基地と家禽基地、大規模果物生産基地、養魚基地等が自己の能力を発揮できるよう、力を入れている。

畜産と家禽業、果樹業、養魚業は人民の生活向上で重要な役割を果たしている。金正日総書記は畜産物、果物等の生産をより増やし、人民の食卓を豊富にさせるため、沢山の畜産基地と家禽基地、果物生産基地と養魚基地を現地で指導した。総書記の賢明な指導の下で、ここ最近までも、トゥタンアヒル工場が立派に建てられ、大同江果樹総合農場と高山果樹農場が大規模果物生産基地に建て直された。各地の現代化された養鶏場では、進んだ技術を積極的に受け入れ、科学化水準を高めることで、肉、卵の生産で多く

の成果を達成している。大同江果樹総合農場はすべて経営管理が集約化、現代化された総合的な果物生産基地である。この農場では果物の生産を増やすことと同時に、その加工品を多くつくり、人民に保障するための事業を広げている。洗浄から切断、乾燥、包装にいたるまで、すべての工程が現代化され、最新式設備で装備された果物保管庫を持っている大同江果物総合加工農場では、りんご酒、りんごジュ-

ース、りんごサイダーをはじめ、様々な果物飲物を生産している。

近いうちに朝鮮は、軽工業、農業とともに人民経済のほかの部門でも優れた生産性を持つようになり、社会主義大国の扉を開き、またそれを建設する一段と高い水準に入るのであろう。

[朝鮮語原稿をERINAにて翻訳]